

前回の国交省会議での指摘事項について

⑤ 共同住宅等の外皮性能の評価方法の見直しについて

基準案

共同住宅等の住戸間の熱損失の合理化を踏まえて、暖冷房設備の基準一次エネルギー消費量の算定に用いる外皮性能を見直す。

分類	指摘事項	考え方
高断熱サッシの普及	<ul style="list-style-type: none"> アルミ樹脂複合サッシは、断熱性能はいいが、耐火性能としては厳しく、まだまだ十分な選択の余地がない。業界への働きかけや省庁横断での総合的な判断を期待している。（●） 	共同住宅用のアルミ樹脂複合サッシの普及に向け、経済産業省と連携して進める。

⑥住宅の仕様基準の簡素合理化・誘導仕様基準について①

基準案

次の事項を踏まえ、仕様基準の見直し等を行う（具体案は別添参照）。

1. 共同住宅等の外皮性能の評価方法の見直し等を踏まえた外皮仕様基準の見直し
2. 開口部比率の区分の廃止
3. 誘導仕様基準の新設

分類	指摘事項	考え方
トレードオフ	<ul style="list-style-type: none"> • 設備間のトレードオフができるようにすべきではないか。（★） 	<p>仕様基準は、原則全ての新築住宅の省エネ基準への適合義務化の円滑な施行に向け、その普及（関係事業者理解していただき、対応していただくこと）や審査側の負担等も考慮して、極力、簡素・合理化することがまず必要であると考え、原則トレードオフ等は許容しないものとして設定している。</p> <p>また、誘導基準レベルの高い省エネ性能の確保を目指す場合は、これまで同様、省エネ計算により評価していただくことを基本とすることが望ましいと考えているが、将来の省エネ基準引上げも見据え、当該レベルの住宅の普及拡大を図る観点から、簡潔な範囲で仕様基準を設定しようとするものである。</p> <p>仕様基準の設定は、特定の仕様を推奨することになるとのご指摘も一部いただいたが、そうしたものとならないよう、一定の性能値以上のものから選択すれば基準に適合させることが可能となるような基準として構成しているところである（トレードオフが生じる設備等を設定するとその他の設備等の仕様を限定してしまうことになる）。</p>
床暖房	<ul style="list-style-type: none"> • 床暖房を仕様基準に追加してほしい。（★●） 	<p>上記の基本的な考え方のもと、温水床暖房についてはエネルギー消費量が大きく、設備間のトレードオフが生じることから、仕様基準においてはこれを設定せず、従来通り、省エネ計算により評価していただくことが適当であると考えている。</p>

⑥住宅の仕様基準の簡素合理化・誘導仕様基準について②

基準案

- 次の事項を踏まえ、仕様基準の見直し等を行う（具体案は別添参照）。
1. 共同住宅等の外皮性能の評価方法の見直し等を踏まえた外皮仕様基準の見直し
 2. 開口部比率の区分の廃止
 3. 誘導仕様基準の新設

分類	指摘事項	考え方
コージェネレーション設備	<ul style="list-style-type: none"> • コージェネレーション設備を仕様基準に追加してほしい。（★●） 	<p>コージェネレーション設備等の一部の設備は、現状の省エネ性能評価において、その性能の精緻な評価を可能とするため、機器の型番ごとに多数のパラメータを紐づけて評価する仕組みとなっており、現状のままで仕様基準に落とし込もうとすると機器の型番を指定することになること、他設備の需要状況に応じて自家消費量が異なること等、仕様基準の設定にあたって課題があることから、まずは適切な仕様基準の設定を可能とするための交通整理が必要と考えている。</p>
割り切りの必要性	<ul style="list-style-type: none"> • 色々な選択肢を考慮できる仕様基準は理想ではあると思うが、高みを目指すような住宅になってくると組み合わせは多様になってきて、すべてを網羅するような万能な仕様基準にすると複雑化してしまう。設計の入り口でどのような技術を導入すればどのくらい省エネ化が図れるか等の目安としても使ってもらうために割り切りが必要ではないか。（★） 	<p>貴見の通り</p>
確認手続きの合理化	<ul style="list-style-type: none"> • 2025年の省エネ基準適合義務化を見据えて建築確認手続きが円滑に進むように、住宅性能表示制度等の各種制度に基づく評価を活用できる仕組みを検討してほしい。（●） 	<p>ご指摘も踏まえて施行に向けた検討を進めたい。</p>

⑦ 共同住宅等の外皮性能に係るZEH水準を上回る等級について

基準案

共同住宅等の評価方法の合理化を踏まえ、共同住宅等の断熱等性能等級 6、7（戸建住宅の断熱等性能等級 6、7 と同水準）を新設する。

分類	指摘事項	考え方
水準	<ul style="list-style-type: none"> 共同断熱等級 6、7 は非常に厳しい水準。（●） 特に、等級 7 の仕様例として外壁の両面断熱が示されているが、RC分譲マンションとしては現実離れしている。（●） 	<p>「中長期的に達成可能な水準」という観点から設定している。上位等級を設けることで、民間事業者において新しい製品や技術が開発されることを期待している。</p>
財政支援	<ul style="list-style-type: none"> 等級 5 相当の税制優遇や補助金は継続してほしい。（●） 	<p>ZEH水準の省エネ性能を満たす住宅については、従来より、経済産業省・環境省と連携して支援を行うとともに、今年度より、住宅ローン減税における借入限度額の上乗せや住宅金融支援機構のフラット35における金利優遇等も措置したところであり、引き続き、こうした支援を行ってまいりたい。</p>